

系統 2液反応硬化型エポキシ樹脂



塗装条件

塗装方法	はけ・ローラー・エアレス
希釈率	専用シンナー 0-18 %
標準塗布量 (kg/m ² /回)	0.13-0.16 kg/m ² /回

注)上記の数値は塗装作業に必要な使用量の標準数値です。
標準塗布量は、個々の条件によって異なります。

塗装間隔

項目	温度	
	標準塗布間隔	最短
		23°C
		16時間
		5日間

塗料性状

項目	内容
1 荷姿	16kgセット(主剤11.2:硬化剤4.8)
2 混合比	2液(11.2:4.8)
3 色	白色
4 つや	—
5 臭い	溶剤臭
6 仕上がり感	平滑
7 比重/密度	1.0 (g/cm ³ /23°C)
8 溶剤比重	—
9 加熱残分(固形分)	63-68 (%)
10 粘度	850 ± 150 (mPa·s/23°C)
11 効物表示	—
12 労安法上の表示有害物	キシレン、エチルベンゼン、メチルイソブチルケトン、酸化チタン(IV)、イソブタノール、n-ブタノール(硬化剤に含有)
13 使用有機溶剤種別	第四類第二石油類
14 消防法による危険物区分	危険等級3級
15 硬化剤の成分による区分	第四類第二石油類

注)上記の数値は標準を示すもので、若干の変動があります。

特徴

- ①各種窯業サイディング板や押出成形セメント板など様々な下地に対し優れた密着性、耐久性を発揮する白色タイプの万能下塗材です。
- ②シーリング材による汚染防止や、ウレタン塗装によるリフティング防止にも効果を発揮します。
- ③上塗材の隠ぺいを補助し、下地のムラを防止します。
- ④鉛・クロムなど有害な防せい顔料を含みません。

主な適用素材

コンクリート・モルタル・GRC板・押出成形セメント板等
(どぶ漬け溶解亜鉛メッキ鋼材、塩化ビニル被覆鋼板は不適)

適用旧塗膜

合成樹脂調合ペイント、アクリルアルキド樹脂塗料、ポリウレタン樹脂塗料、塩化ゴム樹脂塗料

注)既存塗膜が2液溶剤系ふつ素樹脂塗料、シリコン樹脂塗料の場合は施工できません。

使用上の注意事項

- 1)下地がコンクリート、モルタルの場合は素地の乾燥は十分に行い、水分10%以下、pH10以下で施工してください。
- 2)各種標準施工仕様に記載の所要量及び間隔時間を持つて施工してください。材料は直射日光下及び0°C以下の保管は避けてください。
- 3)シーリング材の上に施工する場合、シーリング材の種類等により、汚染や密着不良を起こすことがあります。
- 4)降雨、結露、降雪のおそれ、または強風のおそれがある場合は施工を避けてください。施工時は換気を十分行ってください。
- 5)溶剤系の製品を取り扱う場合は特に火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守してください。
- 6)施工場所の気温が5°C以下、湿度が85%以上又は結露の発生が考えられる場合は、塗膜の乾燥過程で種々の欠陥を生ずることがありますので、施工を避けてください。
- 7)希釈の必要な製品は指定の希釈材を使用し適切な量、適切な方法で均一に薄めてください。
- 8)磁器タイル洗浄用の酸が表面に付着すると変色したり、溶解することがあります。磁器タイルの洗浄用の酸が塗装面に付着する可能性がある場合は、必ず塗装面のマスキングを行ってください。
- 9)軽量モルタル、ALC/パネル、高断熱型窯業系サイディング及び発泡ウレタンなどに施工する場合は、蓄熱したり、水の影響や、下地の状態、塗装時の環境など条件により、塗膜の膨れ、はがれなどが生じことがあります。
- 10)被塗物の形状、膜厚や色目、塗回数、希釈率により、つやが異なって見える場合があります。また、刷毛・ローラー塗装時の塗継ぎ箇所で艶むらを生じやすい傾向にあります。試し塗りの上、本施工してください。
- 11)外部に施工の場合、彩度の高い色は退色、色むらが早期におこる場合があります。
- 12)その他塗料の取扱いについての一般的な注意事項の詳細についてはSDS(安全データシート)を参照してください。

※本製品説明書の内容には、予告なくして変更することがありますので、予めご了承ください。